

8-12-05

特許協力条約

2005

541339

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

[PCT36 条及び PCT 規則 70]

REC'D 30 JUN 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 19133	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/000518	国際出願日 (日.月.年) 22.01.2004	優先日 (日.月.年) 12.02.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C09J161/06, B32B7/12, C09J129/04, 201/00		
出願人 (氏名又は名称) N O K 株 式 会 社		

1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. ☒ 附属書類は全部で 3 ページである。

☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎

☐ 第 II 欄 優先権

☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

☒ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如

☒ 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献

☐ 第 VII 欄 国際出願の不備

☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 11.05.2004	国際予備審査報告を作成した日 30.05.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 橋 本 栄 和	4 J 8 6 2 0
電話番号 03-3581-1101 内線 3457		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1, 3-12 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 2 _____ ページ*, 11.05.2004 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*, _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 2, 4-12, 14-17 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*, PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 1, 13 _____ 項*, 11.05.2004 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*, _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*, _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*, _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☒ 請求の範囲 第 3 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- ☐ 請求の範囲を減縮した。
- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. ☐ 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

補正により削除された請求の範囲3を除く請求の範囲1-17に共通な事項は、請求の範囲1に記載された「水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョン」であるが、国際調査の結果、上記共通の事項は、国際調査報告に記載された各文献に開示されている発明であるか、各文献に開示された発明に基づき当業者が容易に発明し得たものであるから、新規性及び進歩性を有しておらず、PCT施行規則13.2における特別な技術的特徴であるとはいえないとともに、他に特別な技術的特徴となりうる共通の事項が存在するものとも認められない。

また、他に特別な技術的特徴となりうる共通の事項が存在するものとも認められないから、請求の範囲1-17が、単一の一般的発明概念を形成するように連関している一群の発明であると認めることができない。

4. したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。

☒ すべての部分

☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-2, 4-17	無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-2, 4-17	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-2, 4-17	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 6-306340 A (NOK株式会社) 1994. 11. 01
 文献2: US 5200455 B1 (Lord) 1993. 04. 06
 文献3: JP 61-278579 A (NOK株式会社) 1986. 12. 09

請求の範囲1-2ないし4-17の各発明は、上記文献1の開示内容により新規性を有しない。

文献1には、水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液とPVAの水溶液とから調製されたフェノール樹脂水性エマルジョン、当該エマルジョンとヘキサメチレンテトラミン等の硬化剤を含有してなる水性加硫接着剤組成物及び当該接着剤組成物により金属とNBR等のゴムとが加硫接着されてなる複合体が開示されており、当該水性加硫接着剤組成物が有機溶剤溶液型と同様の接着性能を有し、有機溶剤含量の低減化により環境規制に対応できる点も開示されている。

また、請求の範囲1-2ないし4-17の各発明は、上記文献1-3の各開示内容により進歩性を有しない。

文献2には、水不溶性フェノール樹脂の有機溶剤溶液とPVAの水溶液とから調製されたフェノール樹脂水性エマルジョン、当該エマルジョンとヘキサメチレンテトラミン等の硬化剤を含有してなる水性加硫接着剤組成物及び当該接着剤組成物により金属とNBR等のゴムとが加硫接着されてなる複合体が開示されている。

文献2に開示された発明と請求の範囲1-17の各発明とを対比すると、文献2には、有機溶剤としてメチルエチルケトンを使用する点に係る具体的開示がない点のみ一応相違するが、文献1または3に開示されているとおり、フェノール樹脂系加硫接着剤において、有機溶剤として、メチルエチルケトンを適量使用する点は、当業界周知慣用の技術であり、文献2に開示されている発明において、有機溶剤としてメチルエチルケトンを適量使用した点に格別な技術的創意を要するものとは認められない。

モノメチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールのモノブチルエーテル、モノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノプロピルエーテル、メトキシアセトン等が用いられると述べられている。これらのカップリング剤溶媒は、水との混和性が完璧であり、フェノール樹脂は80重量%溶液の形成が可能であると述べられている。

- 5 しかしながら、このようなフェノール樹脂水性分散液の製造法では、この公開公報に記載されている如く、固形分濃度45重量%というような高濃度、高粘度状態においては安定なエマルジョンを形成することができても、実際の分散粒径はかなり大きく、これを水で希釈して使用しようとするすると沈殿を生ずる事態ともなり、またそこで用いられるカップリング溶媒の使用目的は、分散粒径が小さく、粒度分布の狭い良質なエマルジョンを形成させるというよりも、金属表面への濡れ性を改善し、クレーターのない皮膜を形成させることにあると考えられる。
- 10

発明の開示

- 15 本発明の目的は、水と完全な混和性を有する有機溶剤の代りに水と部分的に混和性を有するメチルエチルケトンを用い、しかもその使用量を著しく低減せしめた、金属とゴムとの加硫接着などに好適に用いられる水性加硫接着剤組成物を提供することにある。

- 20 かかる本発明の目的は、水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョンおよびフェノール樹脂用硬化剤を含有し、メチルエチルケトン含有量が10重量%以下である水性加硫接着剤組成物によって達成される。

- 25 水不溶性フェノール樹脂としては、実際にはフェノール、m-クレゾール、p-クレゾール、p-第3ブチルフェノール等のフェノール性水酸基に対してo-位および/またはp-位に2個または3個の置換可能な核水素原子を有するフェノール類またはこれらの混合物、好ましくはコールタールより得られるクレゾール3異性体混合物からo-クレゾールを初留として除いた残渣のm-クレゾールとp-クレゾールと

請 求 の 範 囲

1. (補正後)水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョンおよびフェノール樹脂用硬化剤を含有してなり、メチルエチルケトン含有量が10重量%以下である水性加硫接着剤組成物。
- 5 2. 水不溶性フェノール樹脂が5～25重量%、水溶性高分子物質が0.2～6重量%、メチルエチルケトンが3～40重量%、そして残部が水となる混合比率を有するフェノール樹脂エマルジョンが用いられた請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
3. (削除)
- 10 4. 水不溶性フェノール樹脂がノボラック型フェノール樹脂またはそれとレゾール型フェノール樹脂との混合物である請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
5. ノボラック型フェノール樹脂100重量部当り200重量部以下のレゾール型フェノール樹脂が併用された請求項4記載の水性加硫接着剤組成物。
6. 水不溶性フェノール樹脂が濃度40～60重量%のメチルエチルケトン溶液として用いられた請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
- 15 7. 水溶性高分子物質がポリビニルアルコールである請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
8. 水溶性高分子物質がアセトアセチル基変性ポリビニルアルコールである請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
- 20 9. さらに有機金属化合物が添加された請求項5記載の水性加硫接着剤組成物。
10. フェノール樹脂用硬化剤がヘキサメチレンテトラミンである請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
11. ヘキサメチレンテトラミンがフェノール樹脂エマルジョン100重量部当り0.1～5重量部の割合で用いられた請求項10記載の水性加硫接着剤組成物。
- 25 12. ヘキサメチレンテトラミンと共に水が用いられた請求項10記載の水性加硫接着剤組成物。

- 1 3. (補正後)水がフェノール樹脂エマルジョン100重量部当り1000重量部以下の割合で用いられた請求項1 2 記載の水性加硫接着剤組成物。
- 1 4. 金属または樹脂とゴムとの加硫接着に用いられる請求項1 記載の水性加硫接着剤組成物。
- 5 1 5. ゴムがニトリルゴム、水素化ニトリルゴムまたはアクリルゴムである請求項1 4 記載の水性加硫接着剤組成物。
- 1 6. 請求項1 記載の水性加硫接着剤組成物で加硫接着されたゴムと金属または樹脂との複合体。
- 1 7. 水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョン。
- 10